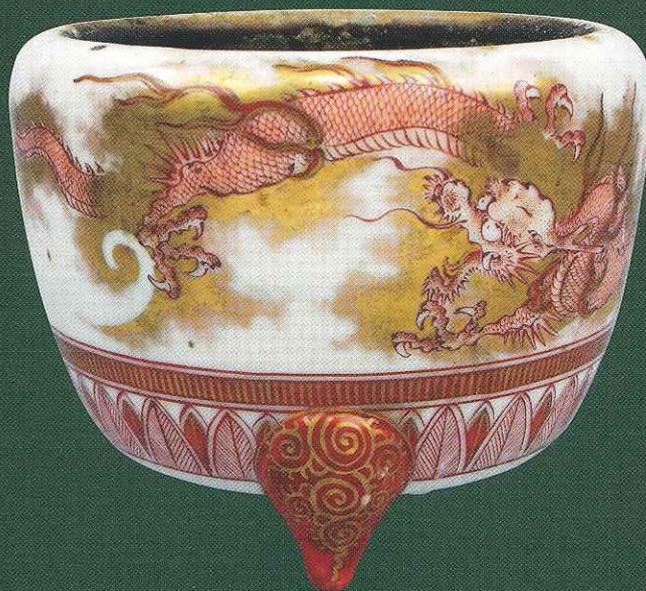
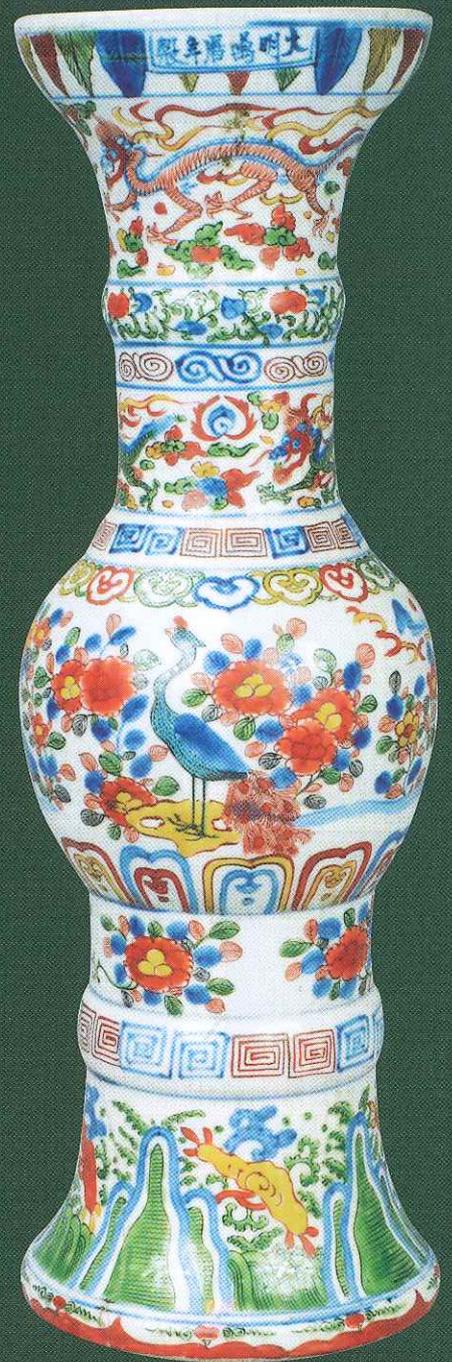


よみがえる、
駒吉。



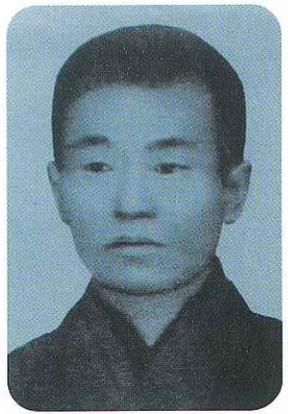
谷口駒吉

知られざる近代九谷の名工

明治時代、江沼郡の大聖寺（現在の石川県加賀市大聖寺）に谷口駒吉という一人の九谷焼の職人がいました。駒吉は、赤絵細描、青手、大聖寺伊万里、中国写し等々を制作し、卓抜した技術を持ちながら、名を馳せる前にこの世を去りました。

本特別展では、300点を超える遺作及び関連資料の中から厳選して約100点を展示し、谷口駒吉の偉業を顕彰します。駒吉の菩提寺である加賀市直下町の上宮寺には、駒吉が寄進した自作の香炉が大・小のセットで寺宝として残っています。この香炉は駒吉の銘が入る貴重なものであり、今回これを特別に展示します。この香炉の他には現在までのところ、本人の銘が入っているものは確認されていません。世の中には確実に駒吉の作った作品がありながら、「これが駒吉の作品である」と断定できるのは、現在、駒吉の子孫たちが所有している「駒吉作品」以外にはありません。本特別展の展覧図録では、これらの「駒吉作品」のすべてを記録しました。

本特別展を通して、九谷焼の職人として名を残すことは非常にまれであり、駒吉のように、素晴らしい技術を持ちながらも無名であった大勢の陶画工たちに思いを馳せていただきたいと思います。



記念講演会 1 令和2年2月15日(土)

「祖父・谷口駒吉のこと」

講師 奥出 清江氏
 おくで きよえ / 元日本女子体育大学助手・元石川県立高等学校教諭
 ・谷口駒吉の孫

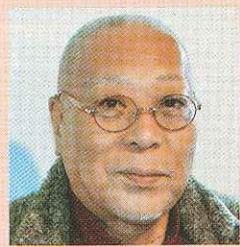


昭和18年、石川県加賀市生まれ。大聖寺高校在籍中、軟式庭球でインターハイ（新潟）及び国体（秋田）に出場。日本体育大学卒業後、日本女子体育大学助手。その後約4年間、東京理科大学教育生理学研究室（正木健雄教授）にて研究員。当初は大学機関の研究者を目指していたが、結婚を機に地元石川に戻り、公立小学校の講師を経て、公立高等学校の教員となる。主要論文に、「ピストル号砲における驚愕反応の「脳波とGSR」の研究」（日本体育大学、1966）、「運動開始から steady state に至るまでの酸素摂取量の変化の研究」（日本体育学会、1986）、「陶芸家谷口駒吉・父清を偲んで」（『加賀高校図書館報第21号』1996）、「古九谷美術館をめぐる」（『裕伊之助美術館友の会会報第17号』2000）等がある。谷口駒吉の孫。

記念講演会 2 令和2年2月29日(土)

「谷口駒吉の技術力」

講師 河島 洋氏
 かわしま ひろし / 日本工芸会正会員・紫々唐陶房代表



昭和26年、石川県加賀市生まれ。中島珠光氏、三代徳田八十吉氏に師事。日本工芸会正会員、石川県九谷焼美術館運営委員会副委員長、加賀市美術協会副理事長、石川県陶芸協会理事、紫々唐陶房代表、九谷焼作家。「平成の吉田屋」の異名を持ち、九谷焼の釉薬研究の第一人者。主要論文に、「古九谷伊万里論争を憂いて」（『石川県九谷焼美術館紀要 九谷を拓く 第1号』（石川県九谷焼美術館、2018）、「焼物探求」（『石川県九谷焼美術館紀要 九谷を拓く 第2号』（石川県九谷焼美術館、2019）等がある。

※いずれも、聴講は無料。講演時間は13:30~15:00。会場は石川県九谷焼美術館2階ホール。
 ※講演会は事前申込不要です。直接会場にお越しください。定員約60名先着順。

●講演を聴講された方には下記の特典があります。

[1] 入館料560円→280円の特別割引券進呈。

[2] 会期中の2つの講演会参加で特別展「知られざる近代九谷の名工 谷口駒吉」図録進呈。

当館担当学芸員によるギャラリートーク(要入館料)
 令和2年1月25日(土)13:30~企画展示室にて。

石川県九谷焼美術館 KUTANIYAKI ART MUSEUM
 〒922-0861 石川県加賀市大聖寺地方町1-10-13
 TEL 0761-72-7466 FAX 0761-72-7467
 http://www.kutani-mus.jp

- 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(祝日は開館)
- 入館料 一般560円・団体460円(20名以上)
 高齢者280円(75歳以上)・高校生以下無料
- 主な交通アクセス JR大聖寺駅から……徒歩8分
 JR加賀温泉駅から……車で10分
 加賀ICから……車で5分
 小松空港から……車で30分

